



「気持ちを込めて演奏します」と、武田さん

輝いています

ひと

ヴァイオリン奏者

ただりる
武田 梨瑠 さん

心に響く明るい音色を

「聴

いたかたに明るい気持ち
ちになってもらえたら
うれしいですね」と話すのは
ヴァイオリン奏者の武田梨瑠
さん(22歳・南町2丁目)で
す。今月20日に下蔵公民館の
「さくらコンサート」(お知ら
せ版8頁)に出演し、温かい
音色と豊かな表現力で皆さん
に春の陽気をお届けします。

姉の影響で3歳の頃からヴァイオリンを始め、将来は音楽の道を進もうと、第一中学校から大宮光陵高校音楽科へ。高いレベルの技術を持つ同年代の友人たちに負けないようにと、朝から夜まで練習漬けの日々を過ごし、3年生のときに全日本ジュニアクラシック音楽コンクールで審査員賞

を受賞しました。また、桐朋学園大学進学後も、より高度な表現力を身につけ、成績優秀者のみが出演する演奏会に参加するなど、大舞台での経験を重ねていきました。

その一方で、音楽の都・ウィーンに短期留学したときに日常に音楽が溶け込んでいる世界を知り、「クラシックを身近に感じてほしい」という思いを持っていた武田さん。3年前から市内の高齢者施設や学童室、イベントなどでも精力的に演奏してきました。最初はどんな反応があるのか不安でしたが、聴く人の喜ぶ顔を想像しながら曲目や演出を考えた武田さんの演奏会は好評で、会場に訪れた人たちの心をつかんで離しません。

そんな武田さんは昨年のおくらコンサートに出演予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で中止となったこともあり、「皆さんの前で演奏できるのがとても楽しみです」と演奏会を心待ちにしています。当日は市内のピアニスト・野口咲さんと共演し、春をテーマにした曲を披露します。ぜひ皆さんも息の合った美しいハーモニーを堪能し、心温まるひとときを過ごしてみませんか。

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品 巖にあり

—No.58—



本作品は現在の展覧会で御覧いただけます

暁翠筆「八重桜と鳥」
絹本彩色 軸装

本図は暁斎の娘で明治元年に生まれ、後に日本画家となった河鍋暁翠(1868〜1935)の作品です。満開の八重桜が咲き誇っています。中央には青い羽根色が美しい鳥が、長い尾羽を垂らして止まっています。桜の幹にはたらし込みの技法が用いられており、暁翠も暁斎と同様、狩野派だけでなく、琳派の技法も習得していたことが分かります。自身が身につけたさまざまな伝統的技法を自在に駆使し、華やかで優美に仕上げられた作品です。

河鍋暁斎記念美術館 開催中

「暁斎・暁翠が描く花鳥画」展 同時開催 特別展
「暁斎が描いた挿絵本展Part2 - 教科書・啓蒙書の世界 -」

開館 = 午前10時〜午後4時
休館 = 木曜日、毎月26日〜末日、
年末年始
ところ = 南町4-36-4
入館料 = 一般600円 高校生・大学生500円
小・中学生300円 65歳以上500円
※65歳以上の人は年齢の分かる物、学生は
学生証をご提示ください
詳細 = 同館 ☎441・9780



最新の情報は
美術館のホーム
ページをご
参照ください



現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。



かわなべ ぎょうさい
河鍋 暁斎
天保2年(1831)
〜明治22年(1889)